

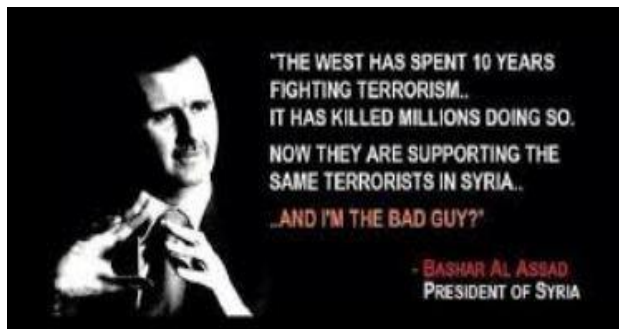
## 「アサドを殺せ」令状

【訳者注】米 - NATO 側が、なぜこれほどアサド一人を目の敵にするのかわからない、と言う人が私を含めて、少なくないと思われる。この、ロバート・F・ケネディ、ジュニア（暗殺された大統領の、暗殺された弟の遺児であろう）の論文を引きながらの説明は、確かにわかりやすい。なるほど、そういう背景があったのかと思わせる。それはオイルのパイプラインをめぐる、アメリカがシリアから、強引に領土使用の合意を引き出そうとすることから始まった。

しかし同時に、それはより大きな問題の一部で、表面的なきっかけにすぎないという読者のコメントが、多くの賛同を得ていて、これも説得力をもつ。その一つを末尾に加えたので、同時に読んでいただきたい。いずれにせよ、この Information Clearing House というサイトの、投稿者と読者のレベルの高さをうかがわせる。

Mike Whitney

September 15, 2016



「西側は 10 年間もテロリストと戦ってきた。その過程で何百万の人間を殺した。今、彼らはシリアで、同じテロリストを支援している。そして私が悪者のようだ」

——シリア大統領バシヤール・アル・アサド

シリアの戦争は普通の意味での戦争ではない。それはシリアやイラクがそうであったように、政権交代作戦である。

この戦争を動かしている主役は、第二次大戦終結以来、50 以上の主権政府を覆してきた国家、すなわちアメリカである。(See [Bill Blum](#))

<https://williamblum.org/essays/read/overthrowing-other-peoples-governments-the-master-list>

ワシントンは政権交代のダントツのチャンピオンであり、他の誰も足元にも及ばない。それ

は事実なのだから、アメリカの民衆は介入のパターンに気づき、プロパガンダを見抜き、その罪を当然、認めているだろうと人は思うかもしれない。しかしそういうことも起こらないようだ。その証拠がどんなに有無を言わさぬものであっても、洗脳されたアメリカ人は常に、彼らの政府は正しいことをやっていると感じている。

しかしアメリカは、シリアで正しいことをやっていない。イスラム過激派を武装させ、資金援助することは正しいことではない——それによって 50 万人が殺され、さらに 700 万人が住処を追われ、国家は居住不可能の荒地になった。それは犯罪であり、不道徳な行為である。そしてアメリカがこういうことをするのは、すべて不当な理由からであり、その主なものはガスである。アメリカが、ダマスカスに傀儡政権を設けようとしているのは、東方にパイプライン回廊を確保し、カタールから EU まで、死命を制するエネルギー埋蔵物が送られるのを監視し、これらの埋蔵物が今後もずっと米ドルで取引され、アメリカの国庫とアメリカの金融資産にリサイクルされるようにするのが目的である。これが、アメリカが中東で支配権を維持し、自分の地球的な帝国主義権力を将来に延長するための、基本的なレシピである。

シリアの戦争は、アサド政府が 2011 年春の抗議行動によってひびが入った時に、始まったのではない。出来事その解釈は、事態を晦ますための、くだらぬ話である。戦争が始まったのは 2011 年、シリア経由で、ガスをカタールから EU まで送ろうとするカタールの計画を、アサドが拒絶したときである。ロバート・F・ケネディ、ジュニアは、すぐれた論文「シリア——もう一つのパイプライン戦争」でこう言っている——

「サウジアラビア、ヨルダン、シリア、トルコを通る、100 億ドルの、1500 キロ・パイプラインが実現すれば、…トルコの分配ターミナルを経由して、カタールをヨーロッパのエネルギー市場に直接、連結したことであろう。…カタール/トルコ・パイプラインは、スンニ派の湾岸王国たちに、世界の天然ガス市場の支配権を与え、アラブ世界のアメリカの最大の盟友カタールを、強力にしたことであろう。

2009 年、アサドは、パイプラインがシリアを通ることを許可する合意に、署名することを拒否すると宣告した。それは“ロシアという我々の同盟国の利益を保護するため”だった。…

アサドが、さらに湾岸のスンニ派君主たちを怒らせたのは、彼が、ロシアの認める“イスラム・パイプライン”を、ガス田のイラン側からシリアを通して、レバノンの港湾まで引くことを許可したことだった。このイスラム・パイプラインは、スンニ派カタールでなく、シーア派イランを、ヨーロッパのエネルギー市場への主たる供給者にし、中東と世界におけるテヘランの影響力を、劇的に増大させることであろう。」

当然ながら、サウジ、カタール、トルコ、アメリカの政府はアサドに激怒した。しかし彼らにはどうすることもできなかった。彼が自分のビジネス・パートナーを選び、自分の主権領土を使ってガスを市場に送らせるのを、彼らはどうして妨げることができようか？

彼らにできることは、どんなマフィアのドンでもやること——何本かの脚を折り、欲しいものを何でも盗むことだ。この特別の場合には、ワシントンとその悪だくみ同盟者は、ダマスカスに密かに代理戦争を仕掛け、アサドを殺すか失脚させて、確実に、西側の石油巨人たちが将来のパイプライン契約を奪い取り、ヨーロッパへのエネルギーの流れを支配することだった。それが少なくとも計画だった。さらに詳しくケネディは述べている——

「アメリカ、サウジ、それにイスラエルの情報局による極秘の電話や報告が示しているのは、アサドがカタールのパイプラインを拒絶するや否や、軍や情報機関の計画者たちは、即刻、コンセンサスを固め、非協力的なバシヤール・アサドを転覆させるために、シリアにスンニ派の反乱を扇動することが、カタール/トルコのガス・リンクを完成させるという共通目的を達成する、実現可能な方法だということだった。ウィキリークスによれば、2009年、バシヤール・アサドがカタールのパイプラインを拒否した直後に、CIAがシリアの反政府グループを支援し始めた。」

繰り返すと、「アサドがカタールのパイプラインを拒絶するや否や」彼は、自分の死を狙う令状にサインしたことになる。このたった一つの行為が、アメリカの侵略のための触媒となり、それは、賑わう5千年の歴史をもつ文明を、荒廃したファルージャ月の眺めのように変貌させてしまった。そこには、いろんな同盟国の情報機関に繰り返し募集され、訓練され、展開された、殺人狂たちがあふれている。

しかし、この話の特に興味を引く点は、アメリカが、60年近く前のアイゼンハワー政権の時代に、ほとんど同じ計画を試みていることである。

「1950年代に、アイゼンハワー大統領とダレス兄弟が…アラブ・ナショナリズム——CIA長官のアラン・ダレスはこれを共産主義と同一視した——に対して、ひそかな戦争を仕掛けたが、それは特に、アラブの自治がオイルに関する譲歩を妨げていた時代だった。アメリカは秘密の軍事援助を、サウジアラビア、ヨルダン、イラク、レバノンの暴君たちに送ったが、それは、ソ連のマルクス主義に対する確かな抑止力とみなされた、保守的ジハーディスト・イデオロギーをもつ傀儡たちを、育てるためだった。…」

CIAは1949年にシリアで、その積極的な干渉を始めたが、それはシリアの民主的に選

ばれた大統領、シュクリ・アル・クワイチが、アラビア横断パイプライン、つまりアメリカがサウジアラビアの油田を、シリアを経て、レバノンの湾港につなぐ目的だった計画を、承認するのを躊躇してから1年も経っていなかった。(そこで) CIA はクーデタを計画し、アル・クワイチを、CIA の選んだ独裁者フスニ・アル・ザイムというゆすりの有罪犯にすげ替えた。アル・ザイムには、議会を解散してアメリカのパイプラインを承認する時間がなかった。彼の国の人民は、政権樹立から14週目に彼を罷免した。

(CIA 要員の) ロッキー・ストーンが、1956年4月に、シリア・ポンドで300万ドルを携えてダマスカスに着いた。このカネは、イスラム軍団を武装させて刺激し、シリアの軍官僚と政治家に賄賂を使って、アル・クワイチの民主的に選ばれた世俗政権を覆す目的だった。

しかし CIA のそのすべてのカネは、シリアの軍官僚を腐敗させることはできなかった。兵士たちは、CIA の賄賂の試みを、このバース党政権に報告した。これに応じて、シリア軍はアメリカ大使館を占領し、ストーンを捕虜にした。厳しい訊問の後、ストーンは、イランのクーデタや、CIA のシリアの合法政府転覆の失敗した試みに、自分が果たした役割をテレビ放送で告白した。… (その後) シリアは、アメリカによしみを通じたすべての政治家を追放し、国家反逆罪で彼らを処刑した。」

いかに歴史は繰り返すかがわかるであろう。どうやら CIA は怠け者で、新しい脚本を書くことも面倒らしく、彼らは古い台本を引っ張り出してきて、役者だけを変えたようだ。

幸運なことに、アサドは——イラン、ヒズボラ、そしてロシア空軍の助けを借りて——彼を追放し、アメリカの従僕を据えようとする試みをはねのけた。これだけで指導者としてアサドが立派だという証拠にならないが、それは、地球的安全保障が国家主権の基本的な保護に依存するという原則、また地球的な安全保障は、挑発によらない侵略を撥ね退けることでなければならないという原則を確認した——その敵対行動が自国の軍隊によるものだろうと、やっていないと見せかけながら、同じ戦略的目的を達成するために使われる、武装した代理兵によるものだろうと——。実は、ブッシュのイラク侵略と、オバマのシリア侵略の間に違いはない。道徳的、倫理的、法的な問題は同じである。唯一の違いは、オバマが、本当は何が起こっているのかについてアメリカ人を混乱させるのに、より成功したことである。

何が起きているのかと言えば、それは政権交代、つまり「アサドはやめろ」という運動である。それが最初からこの政権の繰り返す呪文だった。オバマとその同盟者は、民主的に選ばれた世俗的政権の転覆を試みた。この政権の罪は、この地域でアメリカの支配を更に強化するはずの、パイプライン回廊への協力の要請を拒んだことである。それこそ、ISIS が暴

れるとか、「アサドは残忍な独裁者だ」とか、「アレッポの戦争に疲れ果てた市民」といったごまかし宣伝の背後で起こっていることである。ワシントンはそんなことを全く気にしていない。ワシントンが気にしているのは、石油と権力とカネである。そんなごまかしに惑わされる者が、まだいるのだろうか？ ケネディはこのように要約している――

「我々が認識すべきことは、シリアの戦争とは、天然資源のコントロールをめぐるもので、それは我々が 65 年間中東で戦ってきた多数の、ひそかな、宣戦布告によらない石油戦争と区別することができない。そしてこれを我々が、パイプラインをめぐる代理戦争と理解したときに、初めて起こっていることが理解できる。

それですべてが言いつくされているのではないだろうか？

### 読者のコメント：

いいえ、すべてを言いつくしてはいない。それはその一部を言っているだけだ。我々は、深刻な競争相手を消し去るために、シリアやその周辺国をバルカナイズ（バルカン半島のように勢力を分割する）して、“より大きなイスラエル”を建設しようとするシオニストの計画を忘れてはならない。アメリカは、石油よりもイスラエルのために、より大きな努力を払っている。